

## 第15節

स वै भागवतो राजा पाण्डवेयो महारथः ।  
 बालक्रीडनकैः क्रीडन् कृष्णक्रीडां य आददे ॥ १५ ॥

*sa vai bhāgavato rājā  
 pāṇḍaveyo mahā-rathaḥ  
 bāla-kṛīḍanakaiḥ kṛīḍan  
 kṛṣṇa-kṛīḍāṁ ya ādade*

*saḥ*—彼; *vai*—確かに; *bhāgavataḥ*—主の偉大な献愛者; *rājā*—マハーラージャ・パリークシット; *pāṇḍaveyaḥ*—パーンダヴァ兄弟の孫; *mahā-rathaḥ*—偉大な戦士; *bāla*—幼い頃; *kṛīḍanakaiḥ*—人形で遊ぶ; *kṛīḍan*—遊んでいる; *kṛṣṇa*—主クリシュナ; *kṛīḍām*—活動; *yaḥ*—～である者; *ādade*—受けいれた。

マハーラージャ・パリークシットはパーンダヴァ兄弟の孫にあたり、幼いころから主の偉大な献愛者でした。人形と遊んでいるときでさえ、家族で祭られていた神像のように、その人形を主クリシュナのように崇拝していたのです。

## 要旨解説

『バガヴァッド・ギーター』（第6章・第41節）で言われているように、ヨーガ修練を正しく実践できなかった人でも、信念の篤いブラーフマナの家に生まれたり、クシャトリーヤの王や裕福な商家に生まれたりする機会が与えられます。しかし、マハーラージャ・パリークシットはそれ以上の方です。生まれたときから偉大な献愛者であり、だからこそクル家の、特にパーンダヴァ兄弟という皇帝の家庭に生まれたのです。そのため小さなころから、家族のなかで主クリシュナへの親密な献愛奉仕を知る機会に恵まれていました。パーンダヴァ兄弟は主の献愛者ばかりでしたから、もちろん家庭の崇拜の場所に神像が祭られていました。そのような家に生まれた子は、幸運なことに、遊んでいるときでも神像崇拜をまねるようになります。私も主シュリー・クリシュナの恩寵をさずかり、父をまねて主クリシュナを崇拜したものです。父も私たち子どもを、ラタ・ヤートラー祭やドーラ・ヤートラー儀式といったさまざまな機会に参加するよう導いてくれ、子どもや友だちのために惜しむことなくお金を使ってプラサーダを与えてくれました。私の精神指導者もヴァイシュナヴァの家生まれ、偉大なヴァイシュナヴァの父であるタークラ・バクティヴィ

ノーダから献愛奉仕へのあらゆる感動を授かりました。それこそがヴァイシュナヴァ家庭に生まれることの幸運です。名高いミーラー・バーイーは、ゴーヴァルダナの丘を持ち上げた方である主クリシュナの堅固な献愛者でした。

数多いそのような献愛者の生涯には共通したものがあります。偉大な献愛者たちの生涯のはじめには、いつも同じことが起こっているからです。ジーヴァ・ゴースヴァーミーは、「マハーラージャ・パリークシットは、小さいころから主クリシュナのヴリンダーヴァナの幼少期の娯楽について聞いているはず」と言います。幼い友だちとその娯楽をまねしていたのですから。そしてシュリーダラ・スヴァーミーも、「マハーラージャ・パリークシットは、年長の家族が祭っていた神像の崇拜をまねていた」と言います。シュリーラ・ヴァイシュナータ・チャクラヴァルティーも、ジーヴァ・ゴースヴァーミーの意見に同意しています。つまり、どちらの意見をとっても、マハーラージャ・パリークシットが幼いころから主クリシュナに対する愛情を自然に抱いていたことがわかるのです。上記のようなことをまねしていましたし、そのような行為すべてをとおして、かれが幼いころからマハー・バーガヴァタの兆しである強い信仰心を持っていたことの証になっています。このマハー・バーガヴァタたちをニッテャ・シッダ (nitya-siddha) 「生まれたときから解放されている魂」といいます。いっぽう、誕生したときから解放されていなくても、交流をとおして献愛奉仕への感情を高めていく人々もおおり、そのようなかれらをサーダナ・シッダ (sādhana-siddha) といいます。結局どちらにも違いはありませんから、結論として、純粹な献愛者と交流しさえすればだれでもサーダナ・シッダ・主の献愛者になれる、と切り切ることができます。その模範となる方が、私たちの偉大なる精神指導者であるシュリー・ナーラダ・ムニです。前世では家政婦の息子だったのですが、偉大な献愛者との交流をとおして、献愛奉仕の歴史においても類を見ない主の献愛者としての揺るぎない境地に到達しました。